ボケ

Chaenomeles speciosa

ボケ

使用部位

使用する季節

春 秋 冬

作品例

華道家元池坊

小原流
写景盛花自然本位

需要スケジュール

1：月1回

◯：使用するが、年により異なる

空欄：使用しない時期

流派	お稽古クラス	1月	2月	
池坊	初級～上級者	◯	◯	
小原流	中級者	◯	◯	
	上級者	1	1	
龍生派	上級者	1	1	
古流理恩会	上級者	◯	◯	

草月流
勅使河原蒼風
撮影：高木 幹

龍生派
生花　ボケの一種いけ
（紅、白とりあわせて）

古流理恩会
生花　受流生（行型）
実ボケとカキツバタ

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	○							○	○	○
	○	1	○				○	○	○	○
	1	1	○				○	1	○	○
	1	1						○	○	○
	○	○						○	○	○

各流派の求める規格

池坊

生花

使用時期	10～3月
使用本数	7本位
長さ	80～90ｃｍ
枝ぶりなど特徴	枝先を切りとめしてあるものは好ましくない
花の色	茜色を多く使用するが、何色でも可
花の開花程度	あまりこだわらない
実の時期	実は必要ない
検定試験について	**クラス**：入門下附前（自由花も）　**時期**：10～3月
花展での使用について	特に決まりはない

立花

使用時期	10～3月
使用本数	3本位
長さ	80～90ｃｍ
花の色	茜色を多く使用するが、何色でも可
実の時期	実は必要ない
そのほかポイント	自由花でも使用することはある
検定試験について	**クラス**：華掌下附後　**時期**：10～3月
花展での使用について	特に決まりはない

小原流

盛花・瓶花

使用時期	9～5月
使用本数	3～5本
長さ	100～130ｃｍ
枝ぶりなど特徴	四方に広がる枝ぶり、枝はためがきく
花の色	桃色、白
花の開花程度	蕾から開花まで使用
実の時期	秋
そのほかポイント	花意匠から盛花、瓶花などすべての表現区分で使われる
検定試験について	**クラス**：主に中級から使用する（准教授位から）　**時期**：9～5月
花展での使用について	花の時期、実の時期によく使用し、イベントなどでも頻繁に使われる

草月流

花型は特に決まっていない

使用時期	出荷している期間

龍生派

古典華（生花・立華）

使用時期	10～4月
使用本数	3～11本（花型（手法）により違う）
長さ	50～100ｃｍ（花型（手法）により違う）
枝ぶりなど特徴	伸びた枝、屈折した枝
花の色	白、赤、ピンク
花の開花程度	程よい開花とつぼみ
実の時期	秋・冬
検定試験について	**クラス**：中級～上級　**時期**：11～3月
花展での使用について	屈曲や奔放に走る枝が魅力なので花展では多いに重宝される

自由花

使用時期	1～4月
検定試験について	**クラス**：初級～上級　**時期**：11～3月
花展での使用について	屈曲や奔放に走る枝が魅力なので花展では多いに重宝される

古流理恩会

生花（本手生・中流生・受流生・流生・留流生）

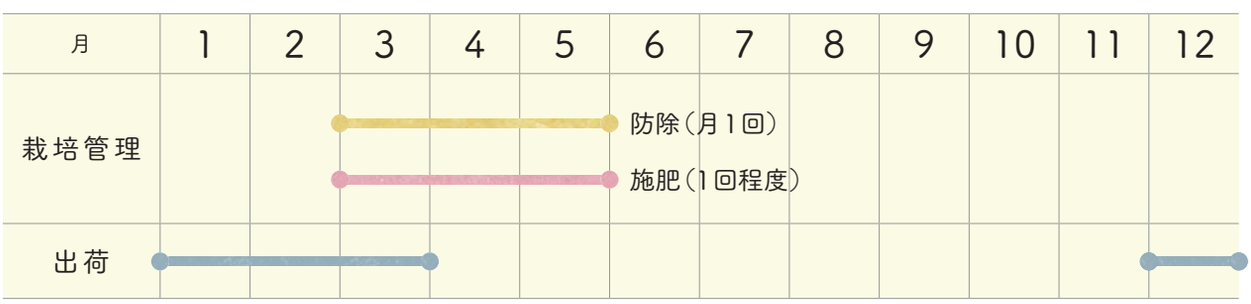
使用時期	2～3月・9～10月
使用本数	5本
長さ	90ｃｍ前後
枝ぶりなど特徴	枝が振っている（まっすぐでなく枝別れがあり、枝の間が短い、詰まっている）
花の色	特になし
花の開花程度	蕾
実の時期	9～10月に使用
そのほかポイント	枝の部分が真っ直ぐである 花付きがよい
検定試験について	**クラス**：中級～上級　**時期**：秋10～11月、春2～3月
花展での使用について	春は1～4月、秋（実ボケまたは花）10～12月

生産のポイント

ボケでは、埼玉県の生産地の例を紹介します。

生産スケジュール

埼玉県の例
（‘あかね’の場合）



- 春の防除は秋の実のために行う。月1回が理想の頻度。ふかす前にもアブラムシ対策の薬剤散布も行っている。
- 潅水は自然潅水の雨水のみ。遮光などは行っていない。
- 除草対策として圃場に防草シートを敷いている。
- 枯れなければ、継続的に栽培できる。モンパ病が出ると枯れてしまうため、改植する。
- ふかしの作業では、温室を昼は25℃、夜は12～15℃で管理。昼は30℃まで上がることも多いので、換気で調節する。

ボケは品種により開花時期、ふかしの有無が異なる

あかね：12月中旬～3月頃まで出荷。温室に入れふかしてから出荷。

東　洋：1～3月頃まで出荷。ふかすこともあれば、ふかさないこともある。

寒更紗：10月から出荷、白とピンクが混ざる花色。枝をとめている。ふかさなくても咲く。

むさし：ふかさなくても開花する。

舞　妓：ふかさなくても開花する（秋）。

いけばなでは、とめていないボケが利用されることが多い

剪定で枝先を切っていないボケを「とめていない」もの、開花を促すために剪定したものを「とめている」ボケと判別されている。

とめていないボケ

枝先が細く伸びている。枝全体が自然体。

とめているボケ

剪定の時期などは各生産者により様々。とめていないものに比べて花付きが良くなる。

生産のポイント 圃場の様子

● 露地での栽培を行っている

10月中旬の圃場の様子。収穫は11月中旬から。

生産のポイント 収穫について

● 収穫は11月中旬から

収穫の様子。

収穫に使用する
枝切りハサミ。

収穫後の圃場の様子。

生産のポイント

出荷調整作業について

ボケは品種や時期にもよるが収穫後には加温したハウス等でふかすことが多い。
収穫後はその準備作業が必要となる。

収穫してきたボケ。5～10本ずつ束ねて水あげを行う。

水があがってから、1本ずつ枝全体のボリュームを小さくするために、枝をビニール紐でまとめていく。枝をコンパクトにすることで、持ち運びしやすいだけでなく、加温するときのスペースの効率化になる。

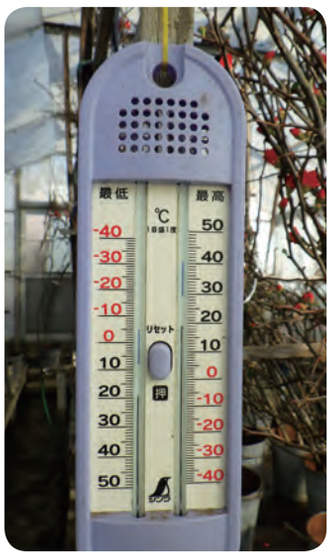
ふかすための加温のハウスに入れる準備ができたボケ。できるだけ、水を切らさないようにしている。

● 害虫防除は温室に入れる前に行う

収穫後、アブラムシがついている場合は温室に入れる前に防除を行う。

● 加温したハウスに入れて、25日程度ふかす

開花調整用の温室。



温室内の温度は15～25℃前後。

加温している様子。赤い花が開花し始めている。開花のバランスが整ったら、出荷へ。

● 開花しても花付きのバランスが悪いものは、一度花を摘み、温室の外に出す（寒さにあてることで、再度花芽が付く）。

写真のボケは、花が上部だけに付いていて、枝全体としては花のバランスが悪いので出荷せずに、残している。

出荷のポイント

枝の張っているボケは持ち運びやすいようにコンパクトに梱包します。

出荷のポイント

梱包作業について

● 箱詰めせずに、ビニールで包んで出荷する

❶ 枝は紐で縛り、全体をコンパクトにまとめ、傷がつかないようにロール状のビニールを利用して包む。

❷ ホッチキスでビニールを留める。

❸ 梱包作業が終わったボケ。

❹ 出荷場へ生産者が持ち込むまでは、水につけて吸水させる。輸送中は乾式輸送で、出荷市場に到着してからは、市場が用意しているバケツに入れて保管される場合が多い。

出荷のポイント

出荷梱包の例

ボケの出荷梱包の状態、梱包を解いた枝の状態を紹介します。

枝をとめていないボケの出荷例

ビニールで包まれて市場に入荷した状態。長さは180cmで５本をまとめている。

ビニールを外した状態。出荷時も枝を紐で縛っている。

５本の束を1本にした状態。１本でも枝をしっかり紐で縛っている。

枝の紐を外した状態。

枝をとめたボケの出荷例

枝をとめたボケの出荷された状態。 長さは180cmで5本でまとめている。

ビニールを外した状態。

束を1本で紐を外した状態。

ボケ マニュアル　情報提供にご協力いただいた皆様

埼玉県　沼口良雄様